

トビロウカに対するネオニコチノイド系殺虫剤の防除効果

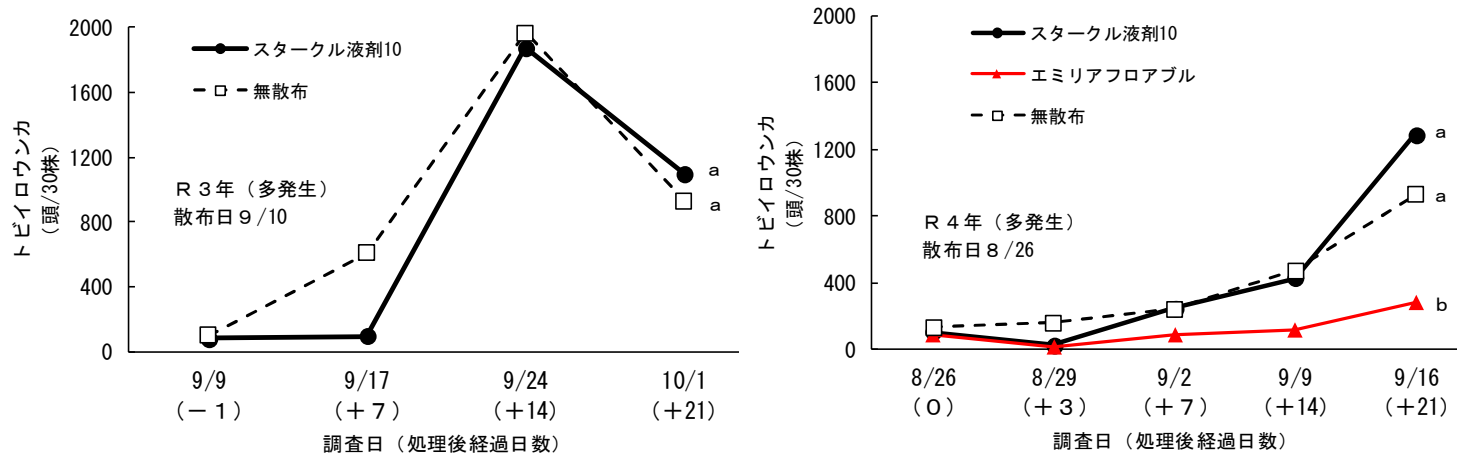
トビロウカのネオニコチノイド系殺虫剤に対する感受性は低下しており、直近2か年の圃場試験においても本剤の防除効果は低下

背景・目的

- ・現場ではトビロウカや斑点米カメムシ類の防除にネオニコチノイド系殺虫剤を使用
- ・室内試験でトビロウカ雌成虫のネオニコチノイド系殺虫剤(スタークル粉剤DL)に対する薬剤感受性が低下傾向
- ・圃場において同成分であるスタークル液剤10の防除効果確認が必要

成果の内容

スタークル液剤10は、散布3~7日後まではトビロウカの密度を抑制する傾向が認められるものの、その後の密度推移は無散布と同等で、効果が認められない



スタークル液剤10散布によるトビロウカの密度抑制効果(左:R3年, 右:R4年)

※図中の異文字間には有意差あり(分散分析【混合モデル】 $p < 0.0001$)



トビロウカに効果なし



斑点米カメムシ類には効果あり

期待される効果

斑点米カメムシ類に対して
ネオニコチノイド系殺虫剤
を使用したら



トビロウカの
発生状況に注意



発生状況に応じて
防除効果のある
薬剤を散布する

○普及対象・範囲
水稻生産者
(農業普及指導員等)

鹿児島県農業開発総合センター
生産環境部病理昆虫研究室
(環境と調和した栽培技術確立事業) (R04)